

平成17年度地域教育力再生プランに係る事業の視察報告

ゆふいんPEAR推進協議会

日時：平成18年1月21日（土）

場所：由布市湯布院公民館

内容：地域ボランティア活動推進事業 市町村ぐるみの事業

8:30～9:30 子どもと通学路のマップづくり

9:30～10:30 講演「地域の子どもたちを守ろう」大分南警察署湯布院幹部交番所長

10:30～ 通学路を点検しながらのごみ拾い



開会式



上田推進協議会会長のあいさつで開会式が始まった。

由布市教育委員会清永教育長のあいさつの後、大分県教育庁生涯学習課柳澤課長が事業についての話にふれながら挨拶を行った。小学生からお年寄りまで、70人以上の参加があった。



通学路のマップづくり



6地域のグループに別れ、危険箇所などを確認しながら通学路のマップづくりに取り組んだ。子どもたちと地域の人々が話をしながら、作業が進められた。

それぞれのグループで話が弾み、地域の人たちの交流の場にもなっていた。



講演会



大分南警察署幹部交番所長による講演が行われた。「地域の子どもたちを守ろう」という演題で、警察署の情報に基づきながら、被害の現状、被害分析などが示され、防犯の在り方について説明があった。

特に、地域の子どもは地域で守り、地域で育てる環境づくりの必要性和、安全安心は地域で育て共有するものであり、地域の財産であるということ、湯布院地区の特性や警戒の視点などを交えながら、具体的に話された。

参加者も、署長の話を聞きながら聞いていた。



通学路の点検及びゴミ拾い



講演会の後、大人に「防犯パトロール隊」のタスキと「子どもの安全パトロール中」の腕章が配布され、通学路の点検とゴミ拾いに出発した。

参加者は、3つのコースに別れ、それぞれ活動を行った。



地域の人々が、子どもたちと一緒に、通学路に危険箇所がないか確認しながら歩いた。

子どもたちも、大人に混じって積極的にゴミ拾いを行っていた。



市の環境課が配布したボランティア専用のゴミ袋を使用して、手際よくゴミ拾いを進めていく参加者たち、その様子から様々な地域活動に積極的に参加している様子が伺えた。



予想以上にゴミが集まり、燃えるゴミと燃えないゴミとの分別をするのが大変そうだった。子どもたちは、沢山のゴミが集まったことに満足そうな顔をしながらも、一方でこんなにゴミが捨てられているのかという残念な思いをいただいている様子だった。

年間400万人を超す観光客が訪れる湯布院にあって、地域の人々が町に対する思いが伝わってくるような活動だった。子どもから大人までが一緒になって、地域のために何ができるかを考え、共に汗を流して活動をする姿に、地域が一体となって青少年教育を進めていこうとする姿勢が伺えた。

また、防犯マップづくりや通学路の点検など、地域ぐるみで、安全・安心なまちづくりを進める活動も積極的に進められていることが分かった。

由布市は、平成18年度も継続して地域ボランティア活動推進事業に取り組んでいく予定であると聞いているが、市町村合併を終え、旧湯布院町が中心となって平成19年度以降の取組を考えながら、大分県のボランティア活動の先進市として、今後の取組が期待される。

県の運営協議会も引き続き、情報交換を密にして、連携協力しながら事業を推進していきたい。

湯布院青少年ボランティアサ
ポートセンターが製作した腕章



腕章を着けて清掃活動するボランティア

地域ぐるみ防犯パト

観光地 湯布院
子供の安全に住民の目

由布市の湯布院青少年ボランティアサポートセンター(上田千代吉会長)は、湯布院地域の児童・生徒の安全を守ろうと、地域ぐるみの防犯パトロール活動を進めている。ボランティア希望者には腕章を貸し出しており、「事件の防止につながるパトロール。多くの人に協力をお願いしたい」と呼び掛けている。全国で登下校中の子どもを狙った犯罪が相次ぐ中、由布市内でも昨年、不審者が声を掛ける事案が起き、市教委などが対応に乗り出している。しかし、多くの観光客が訪れる湯布院地域では、ほかの地域と比べて不審者を見いだしにくいという課題がある。

こうした中、地域住民がボランティアとなって安全対策を進めようと、センターはパトロールするボランティアが身に付ける腕章を作った。未就学児でも分かるように「こどものあんぜんパトロール中」と平仮名で明記している。一月中旬に実施した清掃ボランティア活動では、腕章をした参加者が通学路などを回り、歩道、街灯がない場所や住民の目が届きにくい道路などを確認した。今後はこれらの地点を中心に保護者らと協力し、活動に取り組む。